

# ETTO

## #013

2019 Autumn

【 えっと 】

広島県

医師として広島県を「えっと」楽しむマガジン

医師として広島県を「えっと」楽しむマガジン

# ETTO

【 えっと 】 2019 Autumn #013

広島県地域医療支援センター（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）



特集

## 臨床研修の現場を訪ねて 学びの場 2019

～ 初期研修医と指導医が語る自院の研修の魅力 ～

広島県地域医療支援センター  
（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）  
が発行する、

医学生・研修医・若手医師に  
広島県の医療をPRするための  
広報冊子です。

今号は、広島県の3つの研修病院に密着し、  
研修医と指導医に自院の研修の魅力を  
語っていただきました。

## 高度医療から地域医療まで充実した 広島で臨床研修をしませんか



広島県には24の臨床研修病院があり、環境も病院規模もさまざまです。

多彩な臨床研修病院が提供するプログラムは、

必ずやあなたのニーズにマッチした研修を提供してくれることでしょう。



### 臨床研修病院合同説明会（レジナビフェア）などへの出展

広島県では、できるだけ多くの研修医に県内で臨床研修をしていただきたいと願っています。

県内の臨床研修病院が共同で、合同説明会「レジナビフェア」などに出展し、お揃いの真っ赤なベストで医学生の皆さんをお迎えしています。

充実した臨床研修を受けられる広島にぜひお越しください。



### 若手・女性・ベテランの活躍支援

県内で活躍する医師のためにさまざまな支援を行っています。

若手医師への医療機関の横断的な研修支援、女性医師への働きやすい勤務環境整備・復職研修支援・子育て支援、定年勤務医などへの求職支援など、やりがいを持って活躍できる環境づくりを進めています。



### 広島県での就業支援

広島県での就業をお考えの医師の方に、無料の職業紹介事業の許可を得て、UIターンへの支援をしています。

ウェブでの求人情報提供のほか、個別のご相談にも対応しています。医監や経験豊かなスタッフが在籍し、皆さまのご相談やご希望を伺っています。

具体的な時期が決まっていなくても構いません。お気軽にご相談ください。

### 地域医療への扉

## ふるさとドクターネット広島

広島県地域医療支援センター

広島県地域医療支援センターは、広島県・県内全市町・広島県医師会・広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保などのため、平成23年7月に設置された公的団体です。

わたしたちは広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在解消のため、配置調整や医師確保、人材育成など総合的に取り組んでいます。

【 お問い合わせ 】

広島県地域医療支援センター  
（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）

〒732-0057

広島市東区二葉の里三丁目2-3

広島県医師会館4階

TEL：082-569-6491

FAX：082-569-6492

E-Mail：iryou@hiroshima-hm.or.jp

<http://www.dn-hiroshima.jp>





救急医療の実践で力をつける  
地域に必要とされる医師の育成

# 広島市立安佐市民病院

広島市北部から島根県南部までの広域をカバーする「広島市立安佐市民病院」。  
各診療科での専門的な治療と地域密着型の医療が両立する病院です。  
地域医療のネットワークを生かした熱心な指導で、即戦力となる医師を育てています。



救急患者のファーストタッチは研修医。  
しっかり気道確保ができているか、指導医がチェックする



2021年の暮れ、「あき亀山駅」に直結する新病院が完成予定。高度急性期病院として生まれ変わり、現病院は地域包括ケア病棟を有する慢性期病院に機能分化する予定。



だけなのですが、指導医の先生からは「こういうことも確認した方がいいよ」と足りないところをアドバイスしてもらえて。一つひとつの症例から学ぶことがたくさんあると感じました。

**原田**：救急対応では、まずは重症度を見極めて、どの診療科につなげばよいか判断するのが大事。患者さんの顔を見て、これは危険だと分かるようになるには、数をこなすしかないんです。はじめはできなくて当たり前。でも一生懸命やれば必ずできるようにになります。そのために指導するのが私たちの役割ですね。

**加藤**：和田先生は2年目に入ってから、だいぶ慣れてきたんじゃないかな？

**和田**：最初は指示をしてもらわないと全然できなかったのですが、今は自分で流れがつかめるようになってきました。指導医の先生が必ず見ていてくれるので安心感があります。

**金川**：1年でそこまでできるようになるんですね。

**原田**：はじめはヒヨコみたいだった研修医たちが、1年後には顔つきが変わってくる。本気で患者さんに関わるうちに、責任感が出てくるのでしょうかね。

**青山**：白衣を着ている後ろ姿を見ると、「様になってきたな」と。研修医時代は苦しいことも楽しいこともたくさん経験しておく、後から振り返ったときに財産になると思う。僕が研修医の時は同期が多かったから、お互いに助け合いながら成長できたのが良かったな。

**金川**：たしかに8人いる同期の存在には助けられています。これから回る診療科について教えてもらうことや救急対応について相談すること。研修医だけでなく指導医の先生たちとも医局が一緒なので、何でも気軽に質問できるのも嬉しいですね。

**加藤**：当院は地域の医療機関の先生方との連携が緊密で、地域医療の現場を体験できるのも研修の強み。Geinet（藝州北部ヘルスケアネットワーク）のつながりを通して学ぶことは、貴重な経験になるのでは。

**原田**：月2回の救急カンファレンス

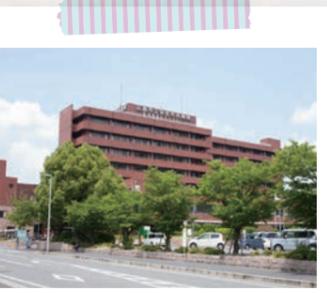
や藝州北部グランドカンファレンスなど、地域の先生方にも参加してもらってミニ学会のようですね。当院の研修医だけでなく中山間地域の病院で実習している研修医や、その指導医の先生たちもWebで参加してくれるので、私たちも刺激を受けます。

**加藤**：地域に根ざした病院として、私たちが育てているのは総合診療医。青山先生は消化器内視鏡の専門医で、私も循環器の専門医だけど、この地域に必要な医療を提供するためには専門分野以外の疾患も幅広く診らなければならぬんだ。

**金川**：症例発表をするのは僕たち1年目の研修医なので、発表の前は必死で準備をしています（笑）。

**青山**：和田先生は去年、消化器内視鏡学会で研修医奨励賞をとったけれど、合同カンファレンスで鍛えた成果じゃないかな。

**和田**：大腸憩室出血の出血箇所を特定するための新しい検査方法について、まとめたものを発表しました。指導してくださった青山先生を



地方独立行政法人広島市立病院機構  
広島市立安佐市民病院

〒731-0293  
広島県広島市安佐北区可部南2-1-1  
TEL: 082-815-5211 FAX: 082-814-1791  
E-mail: secre@asa-hosp.city.hiroshima.jp

Hospital Director:  
平林 直樹  
■病床数: 527床  
■指導医: 56名  
■初期研修医: 16名



<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp/>



広島市立安佐市民病院を中心とした安佐北区の医療機関をつなぐネットワークや合同カンファレンスで症例発表など、日々成長できる研修環境

**加藤**：当院の診療の大きな柱は救急医療とがん治療。特に救急医療に関しては、北の砦と言われるほど責任があるよね。だから研修医の先生たちには、2年間で救急患者さんへの初療が一人でしっかりできる場所まで身につけてほしいと思ってるんだ。

**原田**：市中の病院であれば「この疾患だったらあの病院」というように分担ができますが、この地域の救急病院は当院だけ。疾患も多種多様にわたり、一次から三次救急まで多数の救急患者さんが来院されるので、ありとあらゆる症例への対応が求められます。研修医の先生たちにとっては、疾患頻度に応じて経験を積める環境です。

**和田**：研修先を選ぶ時に救急症例が多い病院を希望して探したので、上級医の先生たちが熱心に指導している様子と、研修医が生き生きと自信を持って動いている姿が印象に残っています。

**青山**：研修を終えて2〜3年後に、いきなり一人で診るような環境に置かれるケースもよくあること。だから研修医と一緒にいる時は、「ああでもない、こうでもない」と話しながら一緒に方針を決めて進めています。その過程も含めて研修医の考える力になればいいなと。

**金川**：僕はまだ救急当直に入った

**加藤 雅也 先生**  
Masaya Kato  
初期臨床研修プログラム責任者  
内科・総合診療科 主任部長

**原田 和歌子 先生**  
Wakako Harada  
指導医  
内科・総合診療科 部長

**青山 大輝 先生**  
Taiki Aoyama  
指導医  
内科・総合診療科 副部長

**和田 恵実 先生**  
Megumi Wada  
高知大学卒  
初期研修2年目

**金川 宗寛 先生**  
Munehiro Kanegawa  
愛媛大学卒  
初期研修1年目

編集制作 【民間医局】株式会社メディカル・プリンシプル社  
Art Director: 勝又シカズ Writer: 安藤栞 Photographer: 伊東昌信



実践できるから身につく  
積極的な姿勢で前に進める研修

## JA尾道総合病院

広島市と福山市という2つの大きな医療圏の狭間にある尾道。  
この地で地域医療の重要な役割を果たしているのが「JA尾道総合病院」です。  
毎年多くの学生が研修を希望する人気病院での、  
活気あふれる研修生活について伺いました。



**大田垣 真 先生**  
Shin Otagaki  
広島大学卒  
初期研修1年目



**高田 善章 先生**  
Yoshiaki Takata  
広島大学卒  
初期研修2年目



**則行 敏生 先生**  
Toshio Noriyuki  
臨床研修科主任部長  
化学療法センター長  
診療部長・呼吸器外科主任部長

**則行**：ここ数年はすごくアクティブな先生たちが研修に来てくれてるよね。この病院を選んだ決め手は何だったのかな？

**高田**：広島市内での研修も考えたのですが、その地域の中心になっていく病院で研修がしたくて。大学の先輩から「やる気があればどんどんやらせてもらえる病院だよ」と聞いていたことも魅力でした。

**大田垣**：僕は地元が尾道なので、地元に戻って医療を実践したいという気持ちがあったんです。自分で動きながら学んでいけるのも希望とマッチしていました。まだ研修を始めて3カ月ですが、手技はもちろん、診断における考え方も深いところまで教えてもらえるのが嬉しいですね。

**則行**：高田先生は2年目だけど、もう専門を決めている？

**高田**：もともと手を動かすのが好きなので手術がたくて、外科系が産婦人科で迷っています。だから今年のプログラムでは、気になる診療科を集中的に回る予定です。実は今日も産婦人科で帝王切開を2件執刀してきました。

**大田垣**：2年目でも帝王切開をやっているんですか？すごい……。

**則行**：ここでは麻酔科で硬膜外麻酔をしたり、外科でヘルニア手術や腹腔鏡下の胆嚢摘出をしたり……。他の病院ではあまり経験できないことができるのが強みだよ。もちろん「やりたい」という気持ちだけではなく、指導医は研修医が練習している姿を見て「できる」と判断しているんだ。

年に一回の研修医旅行で台湾へ。研修医が目的地を決めてすべて計画を立てるのが恒例。休日には海辺でバーベキューをするなど、研修医同士の交流も多い



見て「できる」と判断しているんだ。

**高田**：ただ手術だけを担当するのはなく、患者さんの治療計画をしっかり立てて、検査や退院までのケアもすべて自分で診ます。1年目に総合診療科を回ったときには外来を任せてもらえたのですが、責任を持って患者さんを診ることができて良い経験になりました。

**大田垣**：普通は研修医が外来を受け持つことはあまりないですよ。僕は今、内科の研修中で病棟の患者さんを担当させてもらっています。主治医の先生に「こういうのはどうですか？」と治療の提案をすると、それを取り入れてもらえることも。診療に参加できると実感できてすごく充実しています。

**高田**：実践を通して身につくことは多いよね。最近ではできるだけ自分でやって、最後の分からないところだけ上級の先生に聞くようにしています。救急科の先生が「全部自分でやってみなさい」と言う先生だったので、

腹腔鏡下手術の練習。練習の成果を指導医が確認して、OKが出れば臨床で実践できる

そこを鍛えられました(笑)。

**則行**：研修医が積極的に動いているから、他の病院から救急の実習に来た先生にはびっくりされるよね。

**大田垣**：1年後にはそこまでできるんですね。今はまだ分からないことはありますが、先輩からは「一つひとつの経験を積みながら身につけていけばいいよ」とアドバイスしてもらって、焦らずにやってみようと思えました。

**則行**：臨床研修科では研修医の自主性を尊重して、それを伸ばしてあげられるような自由度の高いプログラムを設定しているんだ。例えば2年目の地域医療研修では、山間部の医療が体験できる協働型病院や、尾道の開業医院、船で離島を回って患者さんを診る百島診療所での研修を選択することがある。

**高田**：それと緩和ケア研修が2週間あるのも特徴ですよ。僕も最近回ったところです。

**則行**：高田先生には病棟の回診から疼痛コントロールのための薬の処方まで、一通り任せていたから大活躍だったよね。初期研修で「看取り」に関わることができるのは、医師として大きな経験になるはず。救急病院でありながら緩和ケア実習ができるのも、地域の中核を担う当院ならではの強みだね。

**高田**：正直、研修を受けるまでは緩和ケア病棟の患者さんにどう関わればいいのか……、難しいなと感じていたのですが、則行先生が明るく接



している姿を見て衝撃を受けました。患者さんも「則行先生は何でもはつきり言うけど、最後は楽しい気持ちになる」とおっしゃっています。

**則行**：深刻な場面が多くても患者さんには笑っていてほしいからね。研修医の先生たちには知識や技術だけでなく、そうしたコミュニケーション能力を身につけてほしいな。患者さん、ご家族、同僚、先輩医師、コメディカルスタッフとの信頼関係が、診療をするうえでとても大切だから。

**高田**：研修のはじめに上級の先生からも言われました。「他の先生に連絡をとりたいときはすぐにPHSを使うんじゃないかと、なるべく会って直接伝えるように」と。それが当院のオープンな雰囲気にもつながっている気がする。

**大田垣**：病院見学では研修医を見れば、自分が実際にその診療科で動いているイメージが湧きやすいと思います。ここでの研修は、たとえ短いローテーション期間でも、レポートだけ書いて終わるといふ診療科は



「同期には一番気軽に相談できる」と大田垣先生。研修医室で先輩から手技を教わることも



広島県厚生農業協同組合連合会  
尾道総合病院

〒722-8508  
広島県尾道市平原1-10-23  
TEL: 0848-22-8111 FAX: 0848-23-3214  
E-mail: re.onomichi@hirokokuren.or.jp

Hospital Director:  
田妻 進

■病床数: 393床  
■指導医: 29名  
■初期研修医: 15名



<http://onomichi-gh.jp>



自分のペースで経験を積みながら  
アットホームな雰囲気の中で学べる

## 日本鋼管福山病院

年間8,000例以上の内視鏡検査・治療を行う健診部門や、  
関節疾患・外傷治療で広島県トップの手術件数を誇る整形外科に強みのある「日本鋼管福山病院」。  
研修医にそっと寄り添うような温かい指導に魅力があります。



**渡邊 哲也** 先生  
Tetsuya Watanabe

プログラム責任者  
消化器外科専門部長



**持田 浩志** 先生  
Hiroshi Mochida

臨床研修上級医  
内科主任



**木曾 萌香** 先生  
Moeka Kiso

近畿大学卒  
初期研修1年目



市街地から離れた自然豊かな環境で研修に集中できる

指導医が後ろで見ながら細かくサポート。実際に患者さんの検査を担当することで実践的な手技が身につく



がけの仕方がすごく印象的でした。  
**持田**：手技をするときには「少し痛いですよ」とか「大丈夫ですか？」とか、確認しながら進めるようにしています。先に声をかけてあげると患者さんは安心できますよね。自分では当たり前をやっていたことだけれど、そう言ってもらえると嬉しいな。  
**木曾**：それから研修医室がないのも私にとっては良かったところで、医局で他の先生方と話す機会が多いのでコミュニケーションがとりやすいんです。

元気がなさそうだったら声をかける。研修医ミーティングではプログラムの相談だけでなく、日常生活で困ったことがないか、事務スタッフも入って話を聞くけれど、それこそ家族のように見守る雰囲気があるんだよね。  
**木曾**：私はマイペースなタイプなので、たくさん研修医たちの中で切磋琢磨していくよりは、自分のペースで研修ができる病院がいいな。今の環境はそんな自分の性格にも合っていると感じます。

目指す人にはぜひおすすめしたい。研修医2年目からは集中して手技を磨くことができるうえに、大学とのつながりを生かして、3年目以降は岡山大学の整形外科に入局して専門医を取得する選択肢もある。  
**持田**：もし専門分野が決まっていなくても、幅広い診療科を回ることが貴重な経験につながりますよね。僕も研修医時代にいろいろな診療科で経験した、一つひとつの症例や患者さんを今でも覚えています。だから失敗しながらでも、患者さんから学ぶ姿勢を持って積極的に診療に関わってほしいなと思います。木曾先生は来月から麻酔科だよな？  
**木曾**：はい。整形外科の手術件数が多いので、麻酔科の研修で実践できる症例数も多いと聞いています。

ね。まずは自分のやりたいことを見つけて、そこに向かって頑張っていく。木曾：今、内科病棟の患者さんをお見舞いしているのですが、退院される時に「本当にありがとうございました」と言ってもらえて。そういう言葉をかけていただくと、より一層やる気が出ます。患者さんに心から「この先生で良かった」と言ってもらえる医師を目指していきたいです。



上級医と同じ医局を使うことでコミュニケーションがスムーズに。日頃から研修医の様子に気を配ってもらえる環境が嬉しい



「腰椎穿刺があったら呼んでほしい」と頼んでおけば、どこにいても必ず呼び出してもらえる。どの診療科の先生も協力してくれるし、順番待ちがないから珍しい症例でもどんどん経験を積むことができるよね。  
**渡邊**：特に当院の診療の柱となる整形外科では、年間1800件以上の手術を行っているから、将来専門医



医療法人社団  
日本鋼管福山病院

〒721-0927  
広島県福山市大門町津之下1844  
TEL: 084-945-3106 FAX: 084-945-3564  
E-mail: info@nkfh.or.jp

Hospital Director:  
浜田 史洋

■病床数: 236床  
■指導医: 8名  
■初期研修医: 1名

<https://www.nkfh.or.jp>

